

事務事業名	広域交通の確保事業	事業期間	～	年度	係内番号	02
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係	連絡先	232	

計 画 目 的 手 段 ・ 方 法 （ ど う や っ て ）	政策番号	05	基本計画	項目	計画CD	計画名称	施策の柱CD	施策の柱の名称	実行計画の施策の柱における指標との関連度	中						
			基本計画①		01	都市計画マスタープラン	0203	公共交通等の整備方針								
			基本計画②		01	都市計画マスタープラン	0203	公共交通等の整備方針								
			実行計画		13	茅野市・原村生活交通確保維持改善計画	0000	複数の柱にまたがる事業								
予 算 事 業 名	広域公共交通事業費						会計コード	01	款	02	項	01	目	07	事業	02
事務事業の概要 （簡潔にわかりやすく）	他地域の交流を進めるための交通手段の確保をする。高速道路では、高速バス利用者が無料で使用できる駐車場を設置・管理し、中央自動車道の促進を図る。また、鉄道の利便性を向上させるため、中央東線高速化促進広域期成同盟会へ参加し、JR東日本や関係機関等に要望を行うことができるよう、活動経費を負担する。															
現 状 と 背 景 （ どうして ）	市民や観光客等が利用する、広域交通の利便性の向上を図る必要がある。															
目 的 的 意 図 （どんな状態にしたいか）	受 益 者 （誰のために）	市民、観光客														
	対 象 （直接働きかける）	駐車場用地所有者（利用できる状態を確保する）、駐車場（清掃等により利用環境を確保する）、JR東日本、関係機関等														
手 段 ・ 方 法 （ どう や っ て ）	意 図	高速バスや鉄道利用者の利便性の向上を図ることにより地域の発展を目指す。														
	方 法	高速バス利用者が無料で利用できるようにし、清掃等により利用環境を整える。鉄道の利便性の向上に資するため沿線自治体で構成する協議会に参加し、JR東日本や関係機関等へ要望等活動などに協力する。														
A N N （ ）	評 価 指 標 の 作 成	活動指標	行政が活動することで作り出すもの	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
			1	駐車場用地を確保する。	駐車場用地確保	件	駐車場用地所有者との土地の賃貸借関係を継続する。	3								
			2	中央東線高速促進広域期成同盟会への参加・協力	会議参加回数	回		2								
			3													
	変更履歴															
	成 果 指 標	成果指標	成果・効果は何？	指 標 名 称	単 位	算出方法・計算式・目標値設定の考え方など	最終目標値									
			1	中央東線利用客の増	J R茅野駅乗降者数	人/日	JR東日本が公表する乗降者数の目標値	3,800								
			2													
			変更履歴													

実 施 状 況 （ ） D O （ ）	財 源 内 訳	項 目	単 位	2018年度(H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
		事業費等(a)	円	1,425,749	1,386,572	1,244,000			
		国庫支出金	円						
		県支出金	円						
		地方債	円						
	その他特定財源	円							
	一般財源	円	1,425,749	1,386,572	1,244,000				
	活 動 指 標	駐車場用地確保	目標	件	3	3	4		
			実績		3	3			
			達成率	%	100.00	100.00	-	-	
		会議参加回数	目標	回	3	3	2		
			実績		3	2			
			達成率	%	100.00	66.67	-	-	
	—	目標	—						
		実績							
達成率		%	-	-	-	-			
成 果 指 標	J R茅野駅乗降者数	目標	人/日	3,800	3,800	3,800			
		実績		3,791	3,778				
	達成率	%	99.76	99.42	-	-			
	—	目標	—						
実績									
達成率	%	-	-	-	-				
備 考	J R茅野駅乗降者数は、J R東日本HPによる。令和元年度数値は、評価時点で未確定。令和元年度利用率 第1駐車場55%（12台/23） 第2駐車場63%（30台/48）となっている。（共に平日の数値、土日祝日は収容台数を上回っている）								

事務事業名	広域交通の確保事業		事業期間	～	年度	係内番号	02
担当部署	企画部	地域戦略課	地域創生係		連絡先		232

事後評価	項目	2018年度 (H30)	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
	（成変果動指要標因分）析		中央東線の魅力度を高め、維持していくために沿線の関係団体との連携強化と粘り強い要請活動の取組みにより、ほぼ目標に達した。	中央東線の魅力度を高め、維持していくために沿線の関係団体との連携強化と粘り強い要請活動の取組みにより、ほぼ目標に達した。		
価値（C H E C K）	成果	高速バス利用者のための駐車場を確保するため、駐車場用地所有者との土地賃貸借契約を継続した。	高速バス利用者のための駐車場を確保するため、駐車場用地所有者との土地賃貸借契約を継続した。			
	課題	苦情等はないが、利用者の利便性を確保するため、駐車場の拡充を行う必要がある。	高速バス駐車場の利用は平日では駐車台数に余裕はあるが、土日祝日では首都圏への移動需要が増すため、収容台数を上回り飽和状態である。特に第2駐車場については、駐車場内の移動も困難な状態であり、利用者の利便性と安全性を考慮し駐車場の拡充を行う必要がある。			
改革・改善の方向性（ACT）	翌々年度方向性	成果 拡充 コスト 拡大	成果 拡充 コスト 拡大			
	改善の方向性の内容	<ul style="list-style-type: none"> 市が高速バス利用者のために駐車場を設置・維持することは、中央自動車道の利用促進を図り、周辺の交通環境整備のために必要である。 中央東線沿線の魅力度を高めるために、高速化だけでなく、利便性の向上を提言していく必要がある。 高速バス利用者駐車場拡充に伴う設計を行いたいことから、コストは拡大とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 中央自動車道の利用促進を図り、周辺の交通環境整備のために高速バス駐車場の拡充を行う。 高速バス利用者駐車場拡充後の管理については、アルピコ交通㈱に管理委託をする。（有料化も視野に入れる） 中央東線沿線の魅力度を高めるために、高速化だけでなく、利便性の向上を提言していく必要がある。 			

作成担当者	小林 弘夫	小林 弘夫			
最終評価責任者	田中 裕之	田中 裕之			
最終評価年月日	2019年5月17日	2020年7月3日			